

## 英国における政府歳出削減と自治体の工夫

### 支出見直し (Spending Review)

クレジットクランチ以降、先進国が軒並み経済不況に見舞われる中、英国も例外ではなく、財政再建を掲げたデビット・キャメロン率いる保守党と自民党の連立政権が昨年5月に発足し、10月には地方自治体にとって厳しい内容の計画が発表されました。

10月20日に英国オズボーン財務大臣から、支出見直し (Spending Review) の発表がありましたが、これは英国の構造的赤字を次の総選挙までに解消するという連立政権の方針に基づき作成されたものです。今後4年間で総額810億ポンド(約11兆円)を削減するとしています。省庁別支出予算の削減率としては、平均して4年間で19%削減。教育を含め福祉、国防などすべての部門での削減策が盛り込まれています。その結果、公的部門の職員約500万人のうち、今後約49万人の職がなくなると予測されています。その中には、10万人規模での自治体職員の削減も含まれています。

### 自治体への補助金削減

地方自治体への政府補助金削減は、今後4年間で27%とされ、かつそれを前倒して実施するとの内容となっています。この自治体への補助金の削減が著しく厳しいものであることは、自治体幹部など関係者の口から直接聞かされています。政府は、予算削減はできるだけ住民サービスに影響のないところから行うようにすると述べていますが、自治体側の意見ではそれは無理というのが大勢です。というのも、英国の地方自治体は、日本と同様に主に地方税と政府補助金でその運営が成り立っているのですが、補助金の割合が日本よりさらに高いためです。

### 自治体の工夫

英国の地方自治体は、補助金カット公表の前から、歳出削減に向けての様々な工夫や考え方が公表されています。その特徴的なものをいくつかご紹介します。

#### ・ スピード違反自動取締り装置の停止

自治体の中には、補助金削減を見越して、スピード・カメラによる自動取締り装置の稼働を停止し、維持費を削減するとの方針を打ち出したところがあります。これに対しては、交通事故が増えるという懸念の声も強いのですが、追随する自治体も増えそうです。

#### ・ イージー・カウンシル( )

イージー・カウンシルと呼ばれる、行政サービスのあり方を、従来のものより著しく受益者負担に重点を置いたものへと変更する計画も自治体から出されています。従来の税金で賄う無料の公共サービスは必要最小限のものに限り、それ以上の行政

サービスを受けたい場合には追加の手数料を支払うというものです。たとえば、建築確認許可が申請から通常 1 ヶ月かかる場合、早期の許可を得たいときには、所定のお金を払うと優先的に事務を進めてもらえるというものです。

日本でもやや似たような制度はあります。一例は、自動車ナンバー登録事務です。市民が自分の自動車に好きなナンバーをつけたい場合は、追加でお金を払えば、希望の番号をもらえるというもので、当事務所職員も日本にいたころ利用していました。

無料あるいは低廉な行政サービスは基本的なものに限定し、市民が個別に希望する追加行政サービスについては受益者負担とする。そして、その範囲を広げていこうとする試みです。これに対する批判として、結局富裕者優遇制度ではないかという意見も出されていることを付記しておきます。

#### ・ その他の工夫

極端な例としては、行政サービスの大半を外部委託してしまうというのがあります。地方自治体の行政組織を極端に縮小し、外部委託契約に必要な職員だけを自治体職員として残して、およそすべての行政サービスを外部委託してしまうというものです。

#### 【参考】

イージー・カウンシル：英国の「イージー・ジェット」という格安航空会社は、基本運賃を非常に安くする一方、それまで無料で提供されていた機内食、飲み物、預け入れ手荷物などを有料化し、希望者にだけ追加料金を徴収して提供する形をとっています。そうした考え方を行政サービスに取り入れた自治体のことを、この航空会社名にちなんで「イージー・カウンシル」と呼んでいます。

(山口次長 愛知県派遣)